

吉村順三先生からのヒント—愛知県立芸術大学施設整備にあたり

2010年8月17日・江口倫郎まとめ

1. 住む人への思いやり

- もっと住む人の立場から考えなければね。『ホームプランニング 世界の市民住宅』(*1)
- もっと大事なのは人間じゃないでしょうか。『講演対談シリーズ=住宅を語る 吉村順三』(*2)
- 人の喜んでくれる仕事をやるということは、非常に快適なもので幸福に思っています。(*2)

2. 建物と心

- 丹下君のところは全部畳にしちゃったから、離婚したよね。だから無理してはいけません。(*2)
- 西欧の考えでするのではなくて、日本の気持ちでやる、ということが大切ではないかと思います。(*2)
- どうしたら楽しくなったり、気持ちよくなるかを考えて設計することが大切だね。(*3)

3. 自然との関係

- 建物の配置は、だいたいあの土地のコンターに沿ってできています。(*2)
- 大学のキャンパス全体は、できるだけ自然に従うようにしています。(*2)
- ぼくはいつも、建物のかたちと地形とを切り離さずに考えているんだよ。(*3)
- むしろ建物と建物の中の、空間を大事に考えていました。(*2)
- 建物じゃなくて建物のない所、それが学園じゃないかと思うんですけど。(*2)
- 空気抵抗も少なく、霧が舞い上がることも少ないのです。(*3)

4. 学校と建築

- 建築というものは、他の科の人達にとって非常に大切だと思って、その人達に建築の骨組みのバラエティを適用したかったのです。ですから一つ一つの建物が皆、違う形をしています。(*2)
- 生徒が気軽に先生の家へ行き易いようにした訳です。実際はどうしているのかよく知りませんが。(*2)

5. 音楽と建築

- ニューヨークにカーネギーホールというのがありますが、(中略)音楽家が、中心になってそういう運動を起こして、とうとうそれを保存することになって、いまだにそこでいい音楽界が開かれています。(*2)
- 居間は5角形という変形プランですが、直角の部分がないためか、音のいやな反射がなく、チェロを弾く娘は「音がよく鳴る」といっています。=1990増築部に関して(*3)

6. 天井高について

- 今では、できるだけ天井高を押えるよう意識している。『新建築』1966年1月号(*1)
- 天井の低い魅力のある家がありました。それで、高さというのは大切だなあと、その時気が付きました。(中略)とにかく経済的なわけですね。(*2)
- 天井の高い、ゆったりとした空間は落ち着きます。=1990増築部に関して(*3)

7. 建て替え

- 昔の建築に懐古趣味で住んでいるわけにはいかないわけです。それから人間というものは絶えず新しい刺激を受け、新しい発展というようなものを体得することが楽しいわけですからね。『日経アーキテクチュア』1976年11月15日号(*1)
- 古い東京を残しながら、新しい東京が作られていく。これこそが本当の都市のありかたである。(*1)
- 10年間ぐらい後にはどれぐらいの家がその人の生活に合うかなどを考えて作る。(*1)
- 壊されてどんどんマンションになっているでしょう。これは建築家の悲劇になる場合もあるし、また非常に生きがいになる場合もあるんですが、そういう運命があると思います。必ずしも自分のものではないからね。(*2)

*1 「建築家 吉村順三のことば100」 建築は詩 (永橋爲成 監修, 2005. 彰国社)

*2 「火と水と木の詩」 私はなぜ建築家になったか (吉村順三, 2008. 新潮社) *1979年岐阜講演会

*3 「小さな森の家」 軽井沢山荘物語 (吉村順三, 1996. 建築資料研究社)